

《小学生の部》
佳作（警察庁交通局長賞）

宮崎県宮崎市立大淀小学校
1年 木村 隼輔

こどもタヌキのこうつうじこ

ちいさなタヌキが、たおれているのを、おじいちゃんのいえへむかうこうそくどうろでみました。おとうさんは、「タヌキのこどもが、ひとりでどうろにとびだしたのかもしれないね。きっと、おかあさんタヌキがさがしているよ。」といいました。ぼくは、おかあさんにあえなくなつたこどもタヌキのきもちをかんがえました。そしたら、とてもかなしいきもちになりました。こどもタヌキは、ともだちタヌキとあそんでいて、くるまにきがつかなかつたのだとおもいました。こどもタヌキは、てをあげることができません。うんてんしゅのひとは、こどもタヌキがちいさいから、きづかなかつたのかもしれません。

ぼくも、しうがっこからかえるときにくるまにぶつかりそうになったことがあります。そのことを、いえにかえってからおかあさんにはなすと、すごくおこられました。おかあさんは「くるまにひかれてしんじやつたら、だれともおはなしできないし、がっこうちにいくことも、あそぶこともできなくなるのよ。」といいました。きっと、おかあさんもぼくがくるまとぶつかることが、こわかったのだとおもいます。もし、ぼくがくるまにひかれて、おとうさんやおかあさん、おとうとたち、かぞくやしんせきのみんな、せんせい、おともだちにあえなくなつたらとかんがえたら、こわくなつて、ないつしました。

このまえ、ぼくは、ようちえんせいのおとうとといっしょに、そとをあるきました。おかあさんは、あかちゃんのおとうとをだっこしていました。ぼくは、ようちえんせいのおとうとがきゅうにどうろにとびだすかもしれないしんぱいになりました。だから、おとうとのてをつなぎました。ぼくは、おとうとに「あぶないからはしったらだめだよ。」といいました。ぼくは、もうかたほうのてをたかくあげて、うんてんしゅのひとにきづいてもらえるようにしました。おとうとたちがおおきくなつたら、こどもタヌキのこうつうじこのはなしをして、こうつうあんぜんのことをおしえたいとおもいます。